

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ 13

主の御名を呼び求めて時代を転換する者たちである彼の勝利者たちとなる
ことによって、

キリストの豊富を享受して、彼の命の中で救われる

聖書：マタイ1:21. ローマ10:12-13. 創4:26. 使徒2:21. 詩80:17-19. 11
6:1-2, 4, 12-13, 17

I. 「彼女は男の子を産み「ます。あなたは彼の名をイエスと呼びなさい。

彼は自分の民を、彼らの罪から救うからです」——マタイ1:21:

A. 「イエス」という御名は、「エホバ救い主」、あるいは「エホバの救い」を意味します。神（ヘブル語は「エロヒム」(Elohim)で、大能の方を意味します)は、彼の力を示しており(創1:1)、それは創造との関係における神の御名ですが、「エホバ」は、人との関係における神の御名です(2:4)。

B. 「エホバ」は神の御名であり、自ら存在する方また永遠に存在する永遠の方です(出3:14)。イエスは、エホバ、大いなる「わたしはある」です。彼は、今おられ、昔おられ、やがて来ようとしておられる方です(啓1:4)。

C. 主の御名は「わたしはある」であるので(ヨハネ8:58)、主は「わたしは、あなたの必要すべてである」と言うことができます。わたしたちが必要とするものは何であれ、イエスです。わたしたちは金額欄が空白の署名入り小切手を持っており、わたしたちが必要とするものは何であれ、それに書き込むことができます。これは、ヨハネによる福音書において例証されています。

II. 「呼ぶ」というヘブル語は、「呼び出す、叫び求める」、すなわち叫ぶを意味します。「呼ぶ」というギリシャ語は、人を呼び出す、すなわち、聞こえるように人を名前と呼ぶことを意味します:

A. 霊の領域には、声を発することが重要であるということについて一つのすばらしい原則があります。もしわたしたちが家の中で、祈ることや声に出して主を呼び求めることができないときは、主が行なったように、声に出してわたしたちの負担を語るができる場所を見いだしてください。あるときに、主は、祈るために荒野に行き(マルコ1:35)、またあるときには、祈るために一人で山へ登られました(マ

タイ14:22-23. ルカ6:12)。わたしたちは、たとえ小さな声で祈るとしても、声に出して祈るべきです。

B. 「わたしはエホバを愛する。彼はわたしの声、わたしの嘆願を聞かれるからであり、彼はわたしに耳を傾けられるからである。それゆえ、わたしはすべての日々、彼を呼び求める」——詩116:1-2。

C. 「あなたの声を聞かせなさい」——雅2:14後半。

Ⅲ. ローマ人への手紙第10章12節と13節は言います、「ユダヤ人とギリシヤ人の区別はありません。同じ主が、すべての者の主であって、彼を呼び求めるすべての者に、彼は豊かです。なぜなら、『主の御名を呼び求める者はすべて救われる』からです」:

A. キリストの計り知れない豊富を享受して、キリストの豊満としての、また神の豊満としてのキリストのからだを建造し、召会の中で神に栄光を得させる秘訣は、主の御名を呼び求めることです——エペソ3:8. 1:22-23. 3:19, 21。

B. 「わたしに対するエホバのすべての恩恵に対して、わたしは何を彼に報いようか? わたしは救いの杯を取り上げて、エホバの御名を呼び求める」——詩116:12-13. 参照、103:1-22:

1. アダムの中では、わたしたちの分は神の激怒の杯でした(啓14:10)。しかし、キリストは、彼のすべてを含む死において、わたしたちのためにその杯を飲みました(ヨハネ18:11)。これは、わたしたちがキリストの復活の中で、救いの杯としてのキリストを享受することができるためでした。この杯は、新しい契約のすべての遺贈の実際としてのキリストご自身です(ルカ22:20. イザヤ42:6)。

2. この杯は、「祝福の杯」と呼ばれており(Iコリント10:16)、そこには大いなる祝福があります。それはすなわち、三一の神ご自身であり(民6:22-27)、彼は手順を経て、すべてを含む命を与える霊として、わたしたちに内住してわたしたちの享受となっています(ガラテヤ3:14)。

3. この杯は、神聖で、満ちあふれる杯であり、神が計画された杯です(詩歌176)。「わたしたちは、わたしたちの恵み深い主を味わうとき、また神の完全な救いの実際である彼の愛すべてにあずかるとき、いつも余剰があります(詩歌595番、英文. Iコリント2:9)。

C. わたしたちは主の御名を呼び求めるとき、彼の命の中で救われ、「キリスト化」される過程の中に自分自身を保ちます。その過程は、彼の有機的な救いを通してであり、再生から始まり、造り変えられることを通して、栄光化(彼の団体の表現)へと至ります——ローマ5:10. 8

:10, 6, 11. IIコリント3:18. 5:4。

D. わたしたちは主の御名を呼び求めるとき、聖霊の中にいます。こうして、わたしたちは義と平和と聖霊の中の喜びである、神の王国の実際の中にいます。こういうわけで、わたしたちは、主の御名を呼び求めることによって、彼の命の中で王として支配し、彼の統治権をもって彼を代行することができます——Iコリント12:3後半. ローマ14:17. 創1:26. ローマ5:17。

IV. 主の御名を呼び求めることは、新約から始まった新しい実行ではありません。そうではなく、それは創世記第4章26節において、人類の第三世代であるエノス（「もろい、死ぬべき人」を意味する）から始まりました：

A. それはヨブ（ヨブ12:4. 27:10）、アブラハム（創12:8. 13:4. 21:33）、イサク（創26:25）、モーセとイスラエルの子たち（申4:7）、サムソン（士15:18. 16:28）、サムエル（サムエル上12:18. 詩99:6）、ダビデ（サムエル下22:4, 7. 歴代上16:8. 21:26. 詩14:4. 17:6. 18:3, 6. 31:17. 55:16. 86:5, 7. 105:1. 116:1-2, 4, 13, 17. 118:5. 145:18）、詩篇の作者アサフ（詩80:17-19）、詩篇の作者ヘマン（詩88:9）、エリヤ（列王上18:24）、イザヤ（イザヤ12:4）、エレミヤ（哀3:55, 57）、その他の人たち（詩99:6）によって継続されました。これらすべての人は、旧約時代に主の御名を呼び求めることを実行しました。

B. イザヤは神を追い求める者たちに、神を呼び求めるよう命じました（イザヤ55:6）。異邦人でさえ、イスラエルの預言者たちが常に神の御名を呼び求めたことを知っていました（ヨナ1:6. 列王下5:11）。北から神によって起こされた異邦人も、彼の御名を呼び求めました（イザヤ41:25. 参照、エズラ1:1-4）。

C. 神の民が彼を呼び求めることは、神の命令であり（詩50:15. エレミヤ29:12）、神の願いでした（詩91:15. ゼパニヤ3:9. ゼカリヤ13:9）。それは、神の救いの泉から飲む喜ばしい方法（イザヤ12:3-4）、神の中で自ら楽しむ（ヨブ27:10）、すなわち神を享受する喜ばしい方法です。

D. ですから、神の民は、彼を日ごとに呼び求めなければなりません（詩88:9）。ヨエルが新約のヨベルについて預言したのは、そのようなヨベルの実行でした（ヨエル2:32）。

V. 新約聖書では、主の御名を呼び求めることは、最初に、ペンテコステの日に、ペテロによってヨエルの予言の成就として述べられました——使徒2:21：

- A. わたしたちキリストを信じる者たちが、すべてを含むキリストと、彼が成就し、到達し、獲得したすべてにあずかり、彼を享受するために、主の御名を呼び求めることは絶対に必要です（Iコリント1:2）。神のエコノミーの中で、これは、わたしたちの完全な救いのために、わたしたちが手順を経た三一の神を享受することができる主要な実行です（ローマ10:10-13）。
- B. 初期の信者たちは、これを至る所で実行し（Iコリント1:2）、未信者たち、特に迫害者たちには、キリストを信じる者たちの目立つるしとなりました（使徒9:14、21）。
- C. ステパノは迫害を受けた時、聞こえるように、また大声で、主の御名を呼び求めることを実行しました。ステパノの実行は、彼の迫害者の一人であるサウロに大いに、また忘れられないほどまでに印象を与えました（使徒7:58-60、22:20-21）。その後、不信のサウロは、呼び求める者たち（9:14、21）が、主イエスの御名を呼び求めたことを聞いて、それを彼らが主に従う者たちであるというしるしとすることによって、彼らを迫害しました。
- D. サウロが主に捕らえられた後、直ちに、彼をキリストのからだの交わりの中にもたらしたアナニアは、サウロにバプテスマされ、主の御名を呼び求めて、サウロもそのように呼び求める者となったことを、人に表明するようにと命じました——使徒22:14-16。
- E. テモテへの第二の手紙第2章22節における、テモテへのパウロの言葉によって、パウロは、主の追い求めるすべての者たちが初期のころ、そのような呼び求めることを実行していたことを示しました。疑いもなく、パウロはこれを実行した人であり、彼の若い同労者テモテに、これを実行するように命じ、テモテが自分のように主を享受するようにしました。
- VI. 主を愛し追い求める者は、キリストの御名によって魅了されています。彼女は彼の御名を呼び求めることによって、彼との神聖で、奥義的で、個人的で、愛情深く、親密なロマンスを維持しています。「あなたの名は注がれた香油のようです。それゆえ、おとめたちはあなたを愛するのです」——雅歌1:3後半：
- A. キリストの愛らしい御名（彼のパーソン、すなわち彼の存在）は、すべてを含む、複合の、油塗る香油であり、それはその霊を表徴します。その霊は、神と、人と、キリストの死と、彼の死の効力と、彼の復活と、彼の復活の力とが複合されています——出30:22-30、ピリピ1:19。

B. わたしたちは、自分の霊を活用して、純粋な心で彼の御名を呼び求めるとき、彼に「彼の口の口づけをもってわたしたちに口づけ」していただいているのです。これは、わたしたちが彼との最も個人的で愛情深い接触を持っていることを表徴します——Ⅱテモテ2:22. 参照、Ⅱコリント2:10。

C. わたしたちは、だれかがわたしたちの名前を言うなら、反応します。なぜなら、わたしたちは、その名前の人（パーソン）であるからです。わたしたちは主の御名を呼び求めるとき、彼の御名のパーソンである、すべてを含む、複合の霊を得ます。新しい人のために、キリストをわたしたちのパーソンとすることは、わたしたちが習慣的に主の御名を呼び求めることを必要とします。

VII. わたしたちが主の御名を呼び求めることは、わたしたちが霊的な息である彼を霊的に呼吸することであり、わたしたちの霊的な飲み物である彼を霊的に飲むことです——Ⅰコリント10:3-4：

A. 詩歌210番（全訳）の一節と折り返しは、以下のように言っています：

1. 「主よ、わたしに聖霊を吹いて、どのようにあなたを吸い込むかを教えてください。あなたの懐にわたしの罪と自己を注ぎ出すように助けてください」。
2. 「わたしは自分の悩みと苦しみを吐き出し、罪と汚れを吐き出します。わたしは吸い込みます。あなたのすべての豊富を絶えず吸い込みます」。

B. 詩歌65番（全訳）の2節は次のように言っています、「ほめたたえるにふさわしいイエスは、大能の救い主です。わたしの必要はあなたの御名にあります。このイエスの御名を吸い込むことが、あなたの命を飲むことになります」。

C. その霊は、息（ヨハネ20:22）と生ける水（4:10, 14）としての主ご自身です。わたしたちの息である彼を吸い込み、わたしたちの生ける水である彼を飲むために、わたしたちは彼を呼び求める必要があります：

1. 「エホバよ、わたしは最も深い穴から、あなたの御名を呼び求めました。あなたはわたしの声を聞かれました。わたしの呼吸に、わたしの叫びに、耳を隠さないでください」——哀3:55-56。
2. 主の御名を呼び求めることは、「歓喜をもって、救いの泉から水をくむ」道です——イザヤ12:2-6. 補充本詩歌844番。
3. さらに、わたしたちは正しい霊をもって「イエスは主」、あるいは「主イエス」と言うとき、聖霊の中におり、わたしたちの同じ霊の

飲み物である一つ壺から飲みます。それは、わたしたちの同じ霊の岩であるキリストから流れ出ています（I コリント12:3, 13. 10:4）。それは、キリストのからだの一のために、わたしたちを神聖で、奥義的で、有機的に同じにならせます（1:10. II コリント12:18. 13:11）。

VIII. 勝利者たちは、彼らの証しの言によって、また彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛さないことによって、男の子の原則の中で生きています。彼らは、主の御名を呼び求めることによって自己を否みます——啓12:2, 5, 10-11:

A. 彼らは、彼らの証しの言のゆえに、サタンに打ち勝ちました。証しは、キリストの中には何があるかを他の人々に告げることを意味し、また証しの言葉とは、口に出して語られなければならないものです:

1. わたしたちは、キリストの勝利の霊的事実を宣言することによって、サタンに打ち勝つことができます。わたしたちがイエスは主であることを宣言し、「主イエスよ」と言うことによって、彼の御名を呼び求めるとき、主はサタンに、罪に、死に対して彼の勝利を展覧する道を得られます。

2. イエスの御名があらゆる名にまさることは、霊的な事実です。わたしたちはこの事実を、信仰の中で、人にだけでなく、サタンにも宣言しなければなりません。わたしたちは、イエスが主であること、主が勝利を得ていること、サタンが主の足の下に踏み砕かれたことを、サタンと彼の悪鬼どもに宣言しなければなりません——エペソ1:21. ピリピ2:9-11. ヨハネ14:30後半. ローマ16:20。

B. 彼らは、死に至るまでも自分の魂の命を愛さず、主の御名を呼び求め、自己を否むことによって、サタンに打ち勝ちました:

1. サタンは、アダムの墮落のゆえに、自分を人の魂の命、すなわち人の自己と結合しました。サタンに打ち勝つために、わたしたちは自分の魂の命を愛すべきではなく、むしろそれを憎み、否むべきです——マタイ16:23-24. ルカ14:26. 9:23-24。

2. わたしたちは、祈りの中、主の御名を呼び求めることによって、変貌の山でのビジョン、すなわち、キリストのパーソンのビジョンを適用することができます。キリストのパーソンのビジョンは、また彼のすべてを含む死とすばらしい復活は、わたしたちの、全体における、すべてを含む置き換えであり、王国の実現の中で、一人の新しい人を生み出します——マルコ8:27—9:13。

3. 主と三人の弟子たちが変貌の山から下りてきた直後、ある父親は、

主の弟子たちが彼の苦しんでいる息子から悪鬼を追い出すように求めました。しかし、弟子たちはできませんでした（17-29節）。主は弟子たちに、この失敗の理由を告げました、「イエスは彼らに言われた、『この類のものは、祈りによらなければ、決して出て来ることはできない』」（29節）。

4. 祈ることは、わたしたちが、自分は無であって、何もできないことを、認識することを意味します。祈りは真に自己を否むことです。祈ることは、実は「もはやわたしではなく、キリスト」と宣言することです。これが示していることは、わたしたちが自己を否んで、キリストがわたしたちに置き換わり、わたしたちのすべてと入れ替わることです——ガラテヤ2:20。
5. 実は、わたしたちは自己否むために、長い方法で祈りをする必要はありません。「おお、主イエスよ！」と単純に呼ぶだけで十分です。このような短い祈りでさえ、「もはやわたしではなく、キリスト」を示しています。わたしたちが主の御名を呼び求めることによって短い祈りをするには、自己の努力をして、ある状況を取り扱うことがないことを証しします。むしろ、わたしたちはキリストを適用する、すなわち、キリストと彼の死と復活がわたしたちに置き換わることに関するビジョンを実行します。

IX. わたしたちは、ダニエルのように時代を転換する者たちとなるために、主の御名を呼び求める祈りの人たちとならなければなりません。ダニエルは祈りに頼って、人にはできない事を行ない、人には理解できない事を理解しました：

- A. 捕囚のとき、ダニエルの祈りは最高峰に到達しました。彼は主の御名を呼び求めることを通して、主が何かを行なって、主の心の願いを遂行することを主に求めました。「わたしたちの神よ、今、あなたのしもべの祈りと嘆願を聞いて、主のために、荒れ果てたあなたの聖なる所の上に、あなたの御顔を輝かせてください」（ダニエル9:17）。「主のために」という言葉は、ダニエルの祈りが、完全に神のためであり、自分のためではなかったことを示しています。
- B. ダニエルは、彼の御名を呼び求め、必死になって祈ることによって、祈りの中で神に叫び求めました。「主よ、聞いてください！ 主よ、赦してください！ 主よ、聞き入れて事を行なってください！ わたしの神よ、あなたご自身のために、遅らせないでください。あなたの都とあなたの民は、あなたの御名によって呼ばれているからです」——ダニエル9:19。

- C. ダニエルが受けた啓示のビジョンの内容は、七十週でした。神の民のため、また彼の聖なる町のために神によって割り当てられた運命です——ダニエル9:24-27。
- D. これが示しているのは、わたしたちが祈りの中で主の御名を呼び求める必要があるということです。それによってわたしたちは、彼の永遠のエコノミーを完成するための主に関する新しい啓示と、主の心の願いに関する新しい啓示とを受けることができます。「わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない大いなる隠された事をあなたに告げよう」——エレミヤ33:3. 参照、I コリント2:9-10. エペソ3:18後半. 詩歌135番。
- X. 全聖書は、主が来られることを願うことで終わっており、それは祈り読みや主の御名を呼び求めることにおいて表現されています。「これらの事を証しする方が言われる、『しかり、わたしはすぐに来る』。アーメン。主イエスよ、来たりませ！」——啓22:20。